北海道室蘭市チキウ岬で発見されたザトウクジラ

小池麻美[1]，桑原晃生[2]，笹森琴絵[2]，北　夕紀[2]

Humpback whales found to the Volcano Bay in Muroran City, Hokkaido

Asami Koike[1], Kosei Kuwahara[2], Kotoe Sasamori[2] and Yuki F. Kita[2]
[1] Econix Co., Ltd
[2] Department of Marine Biology and Sciences School of Biological Sciences Tokai University

クジラ偶蹄目，ナガスクジラ科に属するザトウクジラ（*Megaptera novaeangliae*）は世界中に広く分布し，季節的に大規模回遊を行うヒゲクジラである．北太平洋では冬季にメキシコ，ハワイ，小笠原諸島および沖縄などで繁殖･出産を，夏季にアラスカやアリューシャン列島などの高緯度海域で摂餌を行うと報告されている[1)]．国内においては，小笠原諸島や沖縄での観察の他に，2010 年から 2016 年の 3 月から 10 月にかけて根室，白老，斜里，網走，苫小牧，厚岸，登別，留萌および茅部におけるストランディング情報から回遊ルートとして使用されていることが示唆される（Fig. 1）．本研究では，北海道室蘭市噴火湾にてカマイルカ（*Lagenorbyncbus obliquidens*）調査中に，噴火湾においては観測記録史上初とされるザトウクジラを発見したことから，ここに報告する．

今発見は，2016 年 6 月から 8 月にかけて実施されたカマイルカの陸上ならびに乗船目視調査にて確認および撮影された（Fig.1，2）．陸上目視調査では，午前 7 時から午後 5 時まで断続的に鯨類を探索し，発見時にはセオドライト・トラッキングによる位置測定を行った．乗船による目視調査では，北海道室蘭市にて実施される観光船に同行し，特にカマイルカなどの鯨類を発見した際に GPS による位置情報測定と，デジタル一眼レフカメラによって撮影された背ビレの写真を用いて，写真識別法による個体群解析を行った．

ザトウクジラの発見は調査期間中である 2016 年 8 月 6 日 14 時 49 分頃に陸上調査グループによって噴気および浮上が，42°16’ 26”N，141°00’ 17”E でカマイルカ摂餌群と推定される大型群内で確認され，そのおよそ 40 分後の 15 時 27 分に，最初の発見時よりも西方でホエールウォッチング船の調査班が背ビレを単独で確認し撮影に成功した（Fig. 1，2）．陸上から確認された噴気の形状や大きさおよび，浮上時の体色やサイズから，噴火湾でしばしば確認されるミンククジラ（*Balaenoptera acutorostrata*）とは別の鯨種であることが推測され，更には乗船調査班によって撮影された写真から背ビレ前の小さな隆起が確認できたため，本種はミンククジラを含むナガスクジラ科の中でも特徴的な背ビレ形態を持つザトウクジラである可能性を示唆した（Fig. 2）．

国内では 12 月から 5 月にかけて小笠原諸島および沖縄で越冬するザトウクジラの個体識別調査が行われており，カナダのバンクーバー島，ワシントン州沿岸，アラスカ湾西部のコディアック島，カナダ北部のブリ

[1] 株式会社エコニクス
[2] 東海大学生物学部海洋生物科学科
* Tel：011-571-5111，Fax：011-571-7879，E-mail：y2bridge@tsc.u-tokai.ac.jp

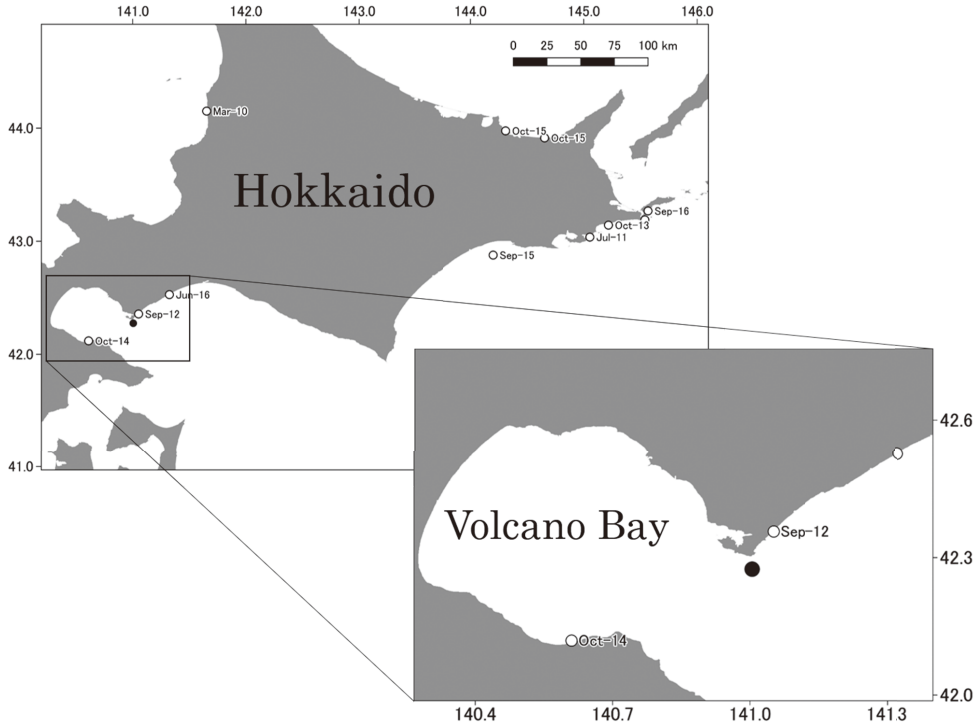


Fig. 1　Humpback whale discovery record in Hokkaido
The black circles indicate the locations where humpback whales were found in this survey. The white circles indicate where humpback whales stranded.



Fig. 2　Humpback whale dorsal fin taken in this survey

ティッシュコロンビアで再発見された報告などから北太平洋西方を北上して摂餌海域へと回遊していると推察されてきた[2-4]．本発見はその考察を支持するものである．

本調査において，初めてチキウ岬におけるザトウクジラ生存個体の観察に成功した．摂餌海域や繁殖海域における個体識別調査は盛んに行われており，ザトウクジラの往来に関する知見は多いが[2]，その回遊経路は未解明な部分が多い．本調査におけるザトウクジラの発見は，その解明のための一助となることから，こうした調査の継続的施行が必要であると示唆した．

謝　辞

本研究成果は、2016 年度学校法人東海大学松前重義記念基金の研究教育振興基金の支援により得られたものです．

乗船調査にご協力頂いたスターマリン KK の皆様に厚く御礼申し上げます。

引用文献

1）Calambokidis J, Steiger GH, Straley JM, Herman LM, Cerchio S, Salden DR, Urban RJ, Jacobsen JK, von Ziegesar O, Balcomb KC, Gabriele CM, Dahilheim ME, Uchida S, Ellis G, Miyamura Y, Ladron de Guevara PP, Yamaguchi M, Sato F, Mizroch SA, Schlender L, Rasmussen K, Barlow J, Quinn II TJ. 2001. Movements and population structure of humpback whales in the North Pacific. Marine Mammal Science 17 : 769-794.

2）Calambokidis J, Erin A. Falcone, Terrance J. Quinn, Alexander M. Burdin, Phillip J. Clapham, John K.B. Ford, Christine M. Gabriele, Richard LeDuc, David Mattila, Lorenzo RojasBracho, Janice M. Straley, Barbara L. Taylor, Jorge Urbán R., David Weller, Briana H. Witteveen, Manami Yamaguchi, Andrea Bendlin, Dominique Camacho, Kiirsten Flynn, Andrea Havron, Jessica Huggins, and Nora Maloney. 2008. Final report for Contract AB133F-03-RP-00078. Cascadia Research 23-24.

3）Darling JD, Calambokidis J, Balcomb KC, Bloedel P, Flynn K, Mochizuki A, Mori K, Sato F, Suganuma H, Yamaguchi M. 1996. Movement of a humpback whale（*Megaptera novaeangliae*）from Japan to British Columbia and return. Marine Mammal Science 12 : 281-287

4）小笠原海洋センター編 . 2000. 事典 クジラの尾びれ . 東京都海洋環境保全協会 , 東京 ; 139.